

1. 4. 2. 2. 受け渡しファイル（シグナルファイル）

①ファイル名

ファイル名は、【（年月日）－（時分秒）－（感震器ID）－e a q. s i g】
で、シグナルファイル格納フォルダーに作成されます。

例：20010316-10530000-0011-eaq.sig

②ファイル形式

ファイル内には、対応する波形ファイルの格納位置が入力されています。
シグナルファイル内には、1 波形ファイルに対する記述が1行のみ存在しています。

例：data¥321020BIWAKO¥11¥20010316-10530000¥20010316-10530000-0011.eaq

③ファイルの取り扱い

波形ファイル収集処理により、波形ファイルのフォーマット変換が行われた場合に、
削除を行います。

1. 4. 2. 3. 受け渡しファイル（波形ファイル）

①ファイル名

ファイル名は、【（年月日）－（時分秒）－（感震器ID）．e a q】
で、波形ファイル格納フォルダーに作成されます。

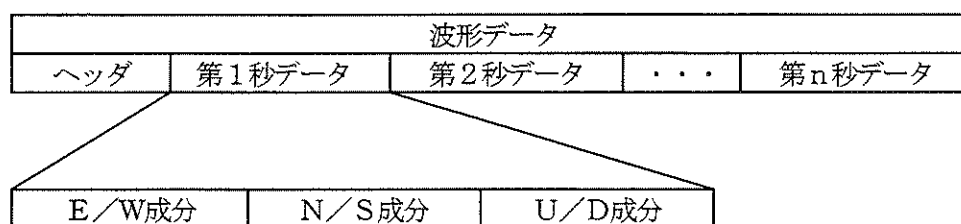
例：20010316-10530000-0011.eaq

②ファイルの取り扱い

波形ファイル収集処理により、波形ファイルのフォーマット変換が行われた場合に、
削除を行います。

③ファイル形式

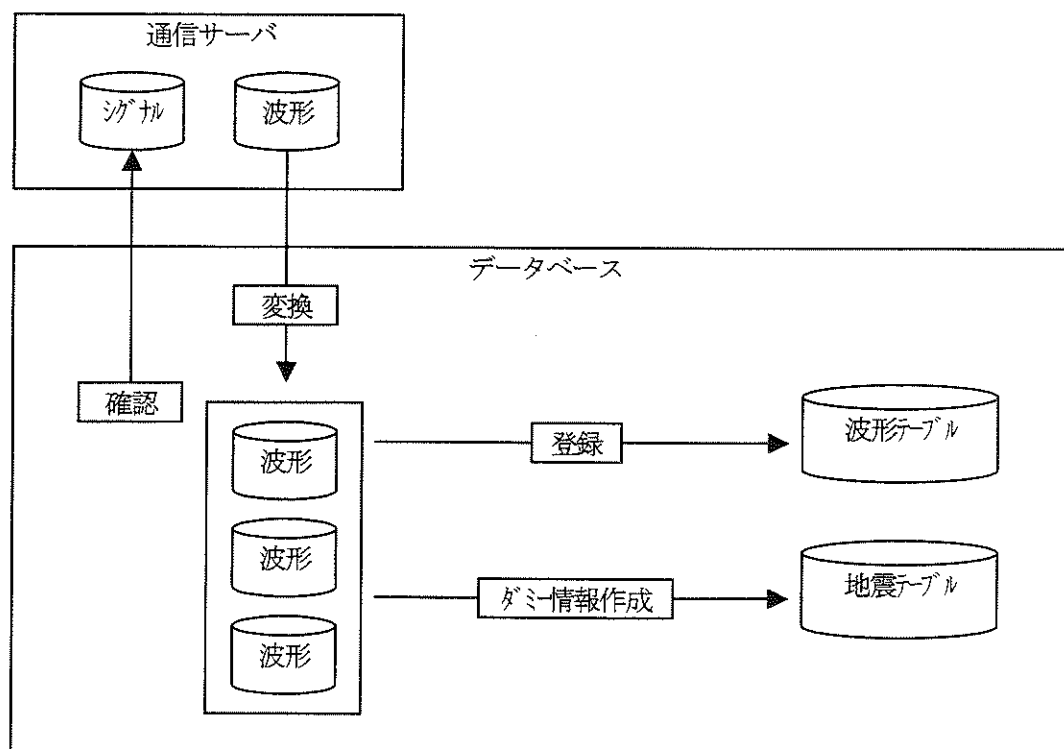
波形ファイルのフォーマットは、WINフォーマットとします。
ただし、ファイル内には、ヘキサアスキーで記述されているものとします。



1. 4. 3. 処理フロー

波形ファイル収集機能の処理の流れは、次のようになります。

- ①シグナルファイルを確認し、画面上に表示します。
- ②変換ボタンが押下された時点で、通信サーバ内の波形ファイルを読み込み、テンポラリ領域に3成分に分割したファイルを出力します。
同時に、電圧値ファイルを【e: 電圧値】フォルダーに出力します。
- ③ファイルのフォーマット変換が完了した時点で、通信サーバ内にあるシグナルファイルおよび波形ファイルを時端末に複写し、通信サーバからは削除します。
- ④登録ボタンが押下された時点で、テンポラリ領域に格納されている波形ファイルをデータベースに登録します。
登録時に、対応する地震IDを自動的に作成します。（12バイトのIDのうち、先頭1バイトを9に設定して作成します）
データベースへの登録が成功すると、テンポラリ領域から波形ファイルを削除します。



概略フロー図

【注意事項】

各過程において作成するファイル名称は次の通りです。

①バックアップファイル（シグナルファイル）

（シグナルファイル名）－（中継装置 I D）

例：200010316-10530000-0011-eaq.sig-321020

②バックアップファイル（波形ファイル）

（波形ファイル名）－（中継装置 I D）

例：200010316-10530000-0011.eaq-321020

③テンポラリファイル

3成分に対して、NS／EW／UDの区分を設定しています。

（年月日）－（時分秒）－（感震器 I D）－（中継装置 I D）－EW. TXT

（年月日）－（時分秒）－（感震器 I D）－（中継装置 I D）－NS. TXT

（年月日）－（時分秒）－（感震器 I D）－（中継装置 I D）－UD. TXT

例：20010316-10530000-0011-321020-EW.txt

20010316-10530000-0011-321020-NS.txt

20010316-10530000-0011-321020-UD.txt

④電圧値ファイル

3成分に対して、NS／EW／UDの区分を設定しています。

（年月日）－（時分秒）－（感震器 I D）－（中継装置 I D）－EW. VOLT

（年月日）－（時分秒）－（感震器 I D）－（中継装置 I D）－NS. VOLT

（年月日）－（時分秒）－（感震器 I D）－（中継装置 I D）－UD. VOLT

例：20010316-10530000-0011-321020-EW.volt

20010316-10530000-0011-321020-NS.volt

20010316-10530000-0011-321020-UD.volt

⑤データベース格納ファイル名

3成分に対して、NS／EW／UDの区分を設定しています。

（年月日）－（時分秒）－（感震器 I D）－（中継装置 I D）－EW. TXT

（年月日）－（時分秒）－（感震器 I D）－（中継装置 I D）－NS. TXT

（年月日）－（時分秒）－（感震器 I D）－（中継装置 I D）－UD. TXT

例：20010316-10530000-0011-321020-EW.txt

20010316-10530000-0011-321020-NS.txt

20010316-10530000-0011-321020-UD.txt

1. 4. 4. 【設定ファイル】

カレントフォルダー配下に、WAVE__INFO. TXTという環境設定ファイルがあります。
ファイル変換処理は、この設定ファイルを読み込みことにより、データベース格納位置等を
管理しています。

フォーマットは以下の通りです。

WAVE__INFO. TXT

<u>¥¥sik</u> _dentu__ccpl¥signal	【シグナルファイル格納位置】
***	【未使用】
E: ¥物理量	【データベース格納位置】
E: ¥電圧値	【電圧値ファイル格納位置】
3	【未使用】
mineadmin	【Oracle ユーザ ID】
admin	【Oracle パスワード】
oracle	【データベース識別子】
<u>¥¥sik</u> _dentu__ccpl	【ネットワークドライブ】
E: ¥backup¥signal	【シグナルバックアップフォルダー】
E: ¥backup¥wave	【波形バックアップフォルダー】